

よもやま話

次世代の担い手を育む

景観学習



Mission 1 半世紀の藤川の「いいとこ」を発掘せよ!

三代目ごとの藤川の魅力や、まちの変化を知る

Mission 2 藤川の「いいとこ」を探検せよ!

まちを歩いて、「いいとこ」を再発見

Mission 3 わくわくウォークラリーを開催せよ!

まちの「いいとこ」をみんなで分かちあう

子どもの頃から、まちの景観について関心を持ち、景観やまちづくりへの意識を高めていくことは、自分のくらすまちへの誇りと愛着を育むのにも大切なことです。

本ガイドブックには藤川小学校の児童らを中心に結成された「藤川いいところ探検隊」が発掘した藤川のまちないところの情報を盛り込みました。



景観学習は、普段見慣れたまちを題材に、「見て・感じる」感受性や、人と交流して学ぶコミュニケーション能力も育みます。

藤川の景観を楽しもう！ まち歩きのおすすめ

前章の見方や感じ方を基に、実際にまちを歩いてみましょう。

見慣れた景観も見方が変わること、新たなまちの魅力に気づききっかけを与えてくれることでしょう。

第三章では、旧東海道沿いを中心に藤川を4つのエリアに分け、それぞれの景観の魅力を読み解きます。

5つの視点

景観を体感しよう！



前章の見方や感じ方を基に、見慣れ親しんでいるまちを歩いてみましょう。いつもと違う視点で見ることで、新たなまちの魅力や課題が見つかるはずですよ。

1 地形を意識する！

高台の展望や、谷地の囲まれ感、段差や緩やかな傾斜、平地といった地形の特徴を意識してみましょう。

- ・奥行きや囲まれ感は？
- ・高低差は？
- ・眺めは？

2 道の線形に着目する！

道の線形で景観の印象は大きく変わります。直線、曲線、突き当たり、十字路のそれぞれの景観の変化に着目しましょう。

- ・見通しは？
- ・視線の先は？
- ・どんな変化？

3 気になる建物や樹木をみつける！

つい見たくなる魅力的な建物や樹木は、まちのシンボルとして重要です。自分だけの好きな場所なども見つけてみましょう。

- ・歴史的な建物？
- ・大きな木？
- ・目印になる？

4 幅や高さを感じる！

建物の幅や高さは、まち全体の景観のリズムをつくっています。また、道幅も狭い広いで景観の表情を左右しています。

- ・圧迫感はない？
- ・心地よい大きさ？
- ・比べてみると？

5 沿道のしつらえを楽しむ！

屋根や壁、生垣、道から見える花壇や並木、玄関先の景色などは、まちのくらしぶりや活気、季節感を伝えてくれます。

- ・花や緑は？
- ・庭や玄関は？
- ・季節感？

どうしてこの景観になったんだろう？という問いかけをしながら、まち歩きをして景観を読み解くことは、その地域の「自然・歴史・くらし」を知って理解することと同じなのです。

目の前の景観には意味があります！

景観を身近に感じ、地域の魅力や課題に気づくためのコツ

自然、歴史、くらしなどテーマを絞り込むことで、見たいものを見つけ出すことができます。

テーマを決める！

写真を撮るときは、意識してなくても自分が見たいと思う景観をフレームに切り取っています。

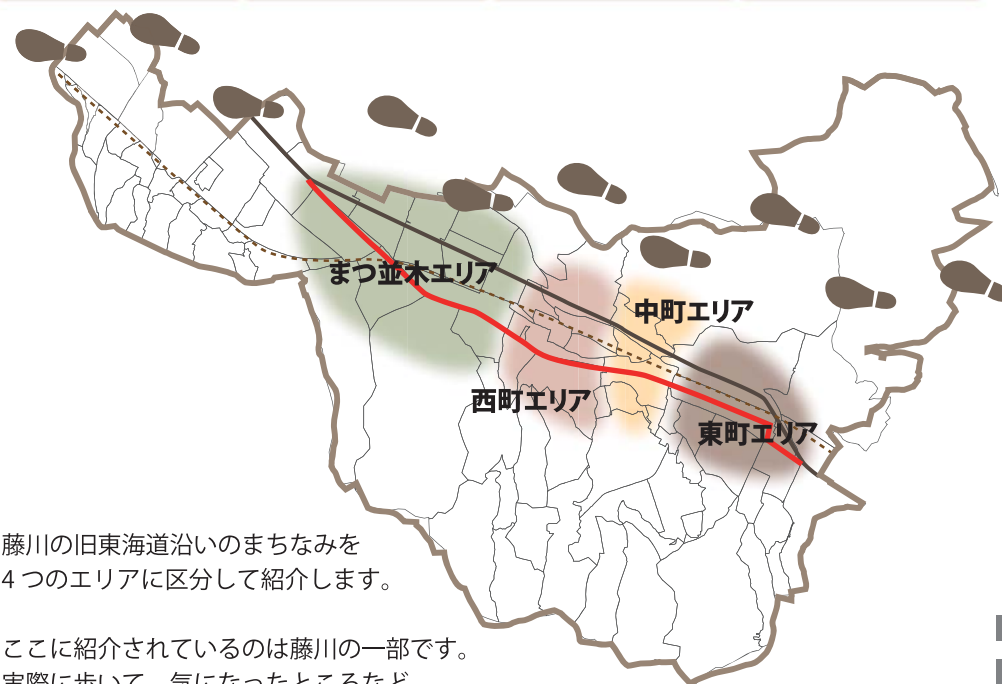
写真に撮る！

季節の変化により景観も変化します。また、場所によって異なる景観の多様さを探しましょう。

多様さを楽しむ！

気づいた魅力や課題を人に話したり、聞いたりすることで、地域の魅力や課題について皆で共有しましょう。

分かちあう！



藤川の旧東海道沿いのまちなみを4つのエリアに区分して紹介します。

ここに紹介されているのは藤川の一部です。実際に歩いて、気になったところなど自分なりの景観をエリアガイドに加えていきましょう。

— 旧東海道

エリアガイド